

住民が待ち望んだ
日本最南端の島の空港



記憶に残るシーンや印象的な出来事などを
古い写真とともに振り返ります。

与那国島は、沖縄本島から西南へ約509キロメートル、石垣島から約127キロメートルに位置し、台湾とは約111キロメートルの近い距離にあります。島の大半を囲う断崖絶壁や、周辺海底に見られるめずらしい地形など、県内の他の離島とは少し違う風景が広がっています。

絶海の孤島・与那国島では、住民の生活や地域経済に直結する航路や空路がとても重要です。そのうち空路は、1965年2月に与那国飛行場が完成し、民間航空路線(与那国―石垣)が初就航。就航式典には当時の日米の要人や住民が参加し、島はお祝いムードに包まれました。

現在の空路は、与那国―石垣間は1日3往復(片道約30分)、与那国―那覇間は1日1往復(片道80分)が就航するほか、チャーター便も誘致し、更なる島の活性化に繋がっています。

与那国町
与那国空港



航空機を囲う住民や関係者(写真提供: 沖縄県公文書館)

わが町の魅力を伝える

「ドゥナンスンカニ」

与那国島の特有の文化は様々あり、格調高い民謡もその一つ。中でも、「ドゥナンスンカニ」は、男女の別れの情景を8・8・8・6調の琉歌体の歌詞に乗せて謡った与那国島を代表する民謡で、「上手さより情けの深さ」をテーマに大会も開催されます。

ドゥナンスンカニの正しい継承発展のほか、消滅の危機にある与那国語の保存継承も視野に入れ、大会では歌唱の部のほかに作詞の部も設置。大会前に関連企画としてドゥナンスンカニゆかりの地巡りと琉歌を学ぶ作詞講座なども行っています。

※2021年は大会開催の予定はありません

【問い合わせ】ドゥナンスンカニ大会事務局
(与那国町教育委員会)
TEL : 0980-87-2002



歌唱の部の出場者は「ドゥタティ」と呼ばれる着物を身につけることが条件



ドゥナンスンカニ節発祥の地を訪れた作詞講座の受講生



現在の与那国空港(写真提供: 与那国町役場)

